けんせつ
東京土建のホームページ　http://www.tokyo-doken.or.jp/

印刷部数11万1500部
（購読料は組合費のなかに含まれています）
（年間購読料　千八百円）
定価　五十円

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03（5332）3971（代表）
FAX03（5332）3972
発行人・編集人
三木　勉

## ウッドショック下の請負契約

ウッドショックのもとで請負契約において留意すべきことについて学習会を開催します。支部会館でWEBにて参加できます。希望者は所属支部にご連絡ください。【日時】8月27日10時～

# ウッドショックの現状と課題

## 注文のたびに値上がり

## プレカットは持ち込みに

佐藤　豊
副委員長

現在、木材が供給されず工事がストップするウッドショックが大きな問題になっています。輸入材の不足に加え、国産材も値上がりしています。今号では現状と課題について、仲間から情報を聞いている佐藤豊副委員長に話してもらいました。

4月に私の会社で以前建てた家の風呂のリフォームがあったときに、ユニット屋さんから「大変ですよ、家が建たなくなっている」と言うのを聞きました。材料がなくなってきている、入ってこない、値段が上がっているというので、慌てて材木屋さんに聞いたら、実はそうですと。ユニット屋さんは5月以降の工事の予定はぽつぽつしか入っていないと言っていました。

佐藤副委員長

4月の東京土建の中央執行委員会で質問があって調べましたが、その時は実際のところ、どういう状態だかわかりませんでした。

その後、コンテナがコロナで行き来していない、ホワイトウッドが値上がりして入ってこない、アメリカでは住宅工事が増えている、中国でもそうだと。ラワンの合板は在庫も使い切り、工場も3月いっぱいでやめるといって、そこからの出荷もなくなったことが分かってきました。

合板については3・11の時に石巻にあった合板工場が流されてしまい、それ以降国産材に切り替えました。ヒノキだとかいろいろな木があって、値段もバラバラだけど、構造用合板では、今は値段も安定して供給されています。

ただ骨になる材木がないのです。木場に行っても向こうの言い値でしか買えない。垂木も無くなる前に頼むわけですが、次に入ってくると値段が変わっている。またプレカットでは材料がないから持ち込みならよいということです。プレカット工場では機械を動かすパート従業員の削減もされたようです。ネジ、釘などの金属類も値上がりしています。鉱石で輸入した鉄の2次製品が値上がり気味です。

### 自治体の国産材活用で

### 地元業者に仕事を

以前、ある大学教授から、林道整備をすることで公共工事ができ、地元の土木屋さんに仕事が回る、道を作ると木を出してくるのが楽になり、林業に携わる人ができる、輸送ルートが発達すれば、加工する工場も時間をかけて良い材料にすることができる、そういう流れについての話を聞きました。私は行政を巻き込んでこの流れを作ることを考えていましたが、この間の対都要請で都がこうしたことを話したと聞きました。

三鷹市では公共建築物に多摩産材を用いることを推進しています。他の自治体でも国産材の利用を推進していないところについては、国産材を使ってほしいと言っていくべきでしょう。建築物の内装材での活用などであれば、地元の業者に仕事が回るし、メンテナンスなどにもつなげていく、これからはそうしたことが重要です。

ところで不動産関係の企業から次が建たないと言われ、仕事がなくなっている職人がいます。また一方的な単価切り下げの情報が入っています。パワービルダーなどに行っている方で、単価が切り下げられたとか、ウッドショックの関係で手間が下がったという方は、ぜひ東京土建に相談してほしい。

元請でやっている方で仕事が進まないという方も、組合に情報を寄せてもらいたい。こちらからも情報を発信できたらと思います。供給先だとかそういうことについても、完全解決できるわけではないけれども、こちらがもっている情報を駆使して努力したい。困っていたら東京土建へ相談してください。

三鷹市では木製遊具にも多摩産材が使われている

幹部学校をＷＥＢで開催（けんせつプラザ東京）

## 仲間が主体の運動へ

### 幹部学校を536人で開催

6月27日、東京土建は第46回幹部学校を、けんせつプラザ東京と支部会館をWEBに繋いで開催しました。全体の参加者は536人でした。

開校にあたって、中村隆幸委員長が学校長挨拶を行ない、春の拡大月間やアスベスト訴訟での前進、前進座記念公演の開催について報告。さらに五輪開催ありきで国民の命と暮らしに向き合わない政治を批判し、月明けの都議会議員選挙、秋の総選挙という政治の年にあたり、政治情勢をしっかり見極めて投票への呼びかけをしたいと語りました。

石川信一学習制度化委員長は、たたかって学び、学んでたたかってきた東京土建の歴史を基礎に、今日学んだことを運動に活かしてほしいと開校の挨拶を述べました。

「東京土建75年の歴史」（主な内容を4・5面に掲載）の2本の基調講演で学習しました。

まとめを小番徹書記長が行ない、組合の21世紀の運動は綱領を見返しながら進めていくことが大事、コロナ禍やコロナ後に建設産業を健康で文化的な産業にしていくために、方針に団結して夏・秋の運動を進めていきたい、また今こそ群・分会・基礎組織を再活性化し、仲間が主体の組合運動にしていきたいと述べました。

最後に石村英明副委員長が閉会挨拶を行ない、団結ガンバローで終了しました。

## 朝やけ

■この夏に東京・名古屋・大阪で開催を予定していた「表現の不自由展」の受難が続いている。東京での同展は6月25日から開催予定であったが、民間展示施設への常軌を逸した街宣活動によって延期に追い込まれた。名古屋では7月6日から市立の施設で開催していたが、8日にその会場に届いた郵便物を開封したところ爆竹が破裂。名古屋市は臨時休館を決定し、展示中止に。大阪では府立の施設で7月16日から開催を予定していたところ、抗議するメールや電話が殺到し、府は施設の利用承認を取り消した。主催者は即刻、地裁に処分取り消しと執行停止を申し立て、地裁は執行停止決定を出した。

■「表現の不自由展」は、戦争責任や天皇制、従軍慰安婦、福島第一原発事故などをモチーフにした作品が展示される。こうした展示に「反日」のレッテルを貼るのは自由だろうが、身の危険を感じさせる妨害行為は許せないのではないか。そうした行為を批判せずに、実質的に展示中止を指示した名古屋市長や大阪府知事の態度も問題だ。市民の安全を最優先したともいわれているが、多様な表現や意見表明が当たり前である自由な社会の実現を首長はどのように考えているのか。憲法で保障された国民の権利を大事にしているのかが問われている。